

大宮

THE ŌMIYA HACHIMAN



遷宮で結ぶ人の輪心の輪
第六十二回神宮式年遷宮



平成 25 年 (2013)
御鎮座 950 年祭

平成 22 年 (2010)

應神天皇壹千七百年式年祭

平成 22 年 春の大祭 (わかば祭り) 号【第 87 号】

<http://www.ohmiya-hachimangu.or.jp/>

主な目次

應神天皇さまのご神威……………	2 頁
應神天皇壹千七百年式年祭……………	3 頁
春の大祭行事……………	4 頁
杜の話題……………	6 頁
大宮の杜 春から夏へ……………	8 頁
初宮詣芳名……………	10 頁
春の大祭社頭風景……………	12 頁



第十五代 應神天皇御眞影
『集古十種』(国立国会図書館蔵)



應神天皇壹千七百年式年祭【四月一日】

古来より農作業の始めを知らせると云う境内の田打ち桜(辛夷)が咲き初めると、妍を競う様に今年も彼岸入りに咲き始めた桜花もこのところの花冷えで満開状態が持続しています。将に、柳の若葉とともに柳桜の候となりました。

今年(皇紀二六七〇年)当宮のご祭神、第十五代應神天皇さまが神上がられて一七〇〇年。来る4月1日午前10時より應神天皇山陵遙拝並びに應神天皇七百年式年祭をご奉仕申し上げます。

應神天皇様は西暦二世紀の終り仲哀天皇と神功皇后の皇子として皇太后(神功皇后)摂政元年(200)にお生まれになりました(今年(皇紀二六七〇年)にも当り)

が、御父帝は崩られており、御母神功皇后は既に身籠られたまま新羅征討に向かわれ、胎中の御子に三韓が帰すであろうとの天つ神の神示から胎中天皇とも称されました。帝

のご治世は阿知使主の渡来など半島との接触、論語や千字文など大陸文化の移入等、史上初の国威が大いに輝いた時期でもありました。應神天皇41年2月15日(新暦4月1日)「日本書紀」崩御せられ、惠我藻伏岡陵に葬り奉り、後に追諡して應神天皇と申し上げます。大阪府羽曳野市誉田の御陵は、仁徳天皇陵と並ぶ大型の前方

後円墳として著名で、墳丘の全長は仁徳天皇陵に次ぎ、体積は我が国最大を誇ります。又神功皇后を母とし應神天皇を子とする聖母(母子)信仰も盛んとなりました。下って奈良期、欽明天皇32年(571)、笹の葉に乗った3歳の童子が宇佐の地に現れ、「我は誉田天皇(應神天皇)にして、広幡八幡磨なり、我が名は護

應神天皇さまのご神威

室司 鎌日紀彦

国霊験威力神通

大自在王菩薩

と託宣され、應

神天皇崩御後

二六一年後八幡

大神としてご顕

現になり(扶桑略記)、宇佐八幡宮に祭祀され

ました。八幡大神は聖武天皇の東大寺大仏建立

をお助けするため出向かれたり(手向山八幡宮

の創建)、和氣清磨に託宣され弓削道鏡の皇位

篡奪を防がれるなど国家の重大事の度ごとに

ご託宣によつてそのご神威を発揮されました。

神功皇后武者絵幟(絵幟師 吉田博之「弓・辰昇」作)・風祭竜二氏奉納



元寇の役のときも朝野挙げて、朝廷も幕府も国民も一丸となって、国の防衛の為に戦い、又全国津々浦々の社寺においても国難打開の熟祷が捧げられました。その中に当然当宮でも祈願がなされた事と思いますが、石清水八幡宮の神前より白い神矢が西に向つて飛び、神風を起し、元軍を退散させたと伝えられております。

このように、我が国史を顧みると應神天皇八幡大神様のご事績ご神威の発揚は、常に国家の危難国運左右の重大局面にあつたと申せます。一七〇〇年の時勢を見ますとき、今日こそ八幡大神様の广大無辺なご神徳ご稔威を景仰し更なるご神威の発揚を乞い願わなければならぬ時かと存じます。

今年も燃え出する若葉の好季節に併せて春の大祭(わかば祭り)が巡って参りました。昭和祭には昭和天皇様の大御心を改めて拝察致し景仰追慕申し上げたいと思ひます。

そうして国民の安寧を常に祈つて下さつている皇室を戴いているこの素晴らしい国柄に感謝して、大祭の期間、多くの参詣の方々をお迎えし、賑々しい奉祝奉納行事と俱に厳肅な祭典をご奉仕させて頂き、ご祭神の广大無辺なご神恩に感謝の誠を捧げて参りたいと願つております。

都が京に移ると「吾れ都近き男山の峰に移座して国家を鎮護せむ」との神意が示され、貞観元年(859)、宇佐神宮より遷座されて石清水八幡宮(当宮の本宮)が御鎮座。朝廷より伊勢の神宮に次ぐ第二の宗廟として崇敬を受けられました。やがて武門の勃興とともに八幡大神は源家の氏神として厚い崇敬を受けられ、当宮も康平6年(1063)、源頼義、義家父子によつて石清水八幡宮より勧請され創建されましたが、それは東国での八幡宮建立の嚆矢でありました。後に、清和源氏嫡流の源頼朝が鎌倉幕府の開府に当たり新たに石清水八幡宮より勧請して鶴岡八幡宮を創始するに及び全国に武門の神として祀られる様になり、現在も全国に四万余の八幡神社が鎮座されております。

(平二十二・三・末 記)

應神天皇壹千七百年式年祭

八幡大神さまと称えられます当宮御祭神の第十五代應神天皇様が神上
 られましてより、今年で一七〇〇年を迎えます。畏きあたりにおかせられて
 は4月1日（日本書紀による應神天皇41年（333）の陰暦2月15日はその
 年の太陽暦に換算して4月1日に当たる）、宮中皇霊殿及び應神天皇陵に
 おいて壹千七百年式年祭が厳かに肅行されました。
 当宮でも、4月1日午前10時より山陵遙拝に続き、應神天皇壹千七百年
 式年祭を肅行致し、広大無辺なる御神徳を景仰申し上げました。



第十五代 應神天皇御眞影
 （拝画：馬堀法眼喜孝画伯）
 あずま工芸(株)版



應神天皇山陵千七百年式年祭の儀 勅使参拜
 （神社新報社提供）

えがのもふしのおかのみささぎ
 惠我藻伏崗陵



引き続き、当宮にて3日に神武天皇遙拝並びに本宮
 （石清水八幡宮）遙拝を禰宜以下でご奉仕致しました。
 尚、宮司は3日午前10時より應神天皇壹千七百年式年祭で
 益々ご神徳の弥高い石清水八幡宮（田中恆清宮司）の
 御鎮座壹千五百年大祭に参列させて頂きました。

御即位の後、大和の輕島に明宮を設けられ、都と定め
 られました。その御治世については、国内では諸国に命
 じて海人部・山守部等を定め、また鹿坂道の開削や韓人
 池・劍池・輕池・鹿垣池の造成等土木事業を行われるな
 ど国家制度や社会基盤の整備を大いに進められました。
 また対外政策では高句麗・百濟・新羅など朝鮮半
 島の国々との外交も盛んに進められましたが、特に最
 初の渡来人の大挙来朝も帝の御代の事です。半島より
 弓月君（秦氏の祖）、王仁（西文氏の祖）、阿知使主・
 都加使主父子（東漢氏の祖）などが渡来。王仁は『論
 語』『千字文』を我が国にもたらし、阿知使主・都加
 使主は天皇の命により中国南朝の呉に渡って縫工女
 を連れ帰ったと言います。こうした渡来人達は進んで
 我が国に帰化し、その知識技術により我が国発展に
 寄与しましたが、それも帝の御聖徳を慕うが故であり、
 帝が我が国家の確立に果たされた御事績は余り
 にも大きいものがあります。

御名を磐田別尊と申し上げる御祭神第十五代應神天
 皇様は、仲哀天皇の第四皇子として御母氣長足姫尊
 （神功皇后）との間に御生誕になりました。神功皇后撰
 政3年、皇太子に冊立され、同69年神功皇后崩御後の
 翌應神天皇元年正月一日に即位されました。
 御母神功皇后は既に身籠られたまま新羅征討に向
 かれましたが、胎中の御子に三韓が帰すであろうと
 の天つ神の神示から胎中天皇とも称されました。皇后
 の新羅からの帰路に築紫でお生まれになり、御幼少の
 頃より聡明で御姿御振舞に聖帝の兆しを備えられて
 いたと伝えられます。



直会にて宮司挨拶



一同 聖寿の萬歳を奉唱



園児による神楽「朝日子舞」を奉奏



應神天皇山陵千七百年式年祭遙拝

應神天皇七百年式年祭記念

春の大祭(わかば祭り)

裏千家大宮匠奉仕 献茶式
観世流大宮八幡宮の杜 新能

今年も新緑萌ゆる若葉青葉の季節が巡ってまいりました。本年は御祭神應神天皇七百年式年の意義ある年に当たり当宮では4月1日、應神天皇七百年式年祭を斎行、そのご神徳を景仰申し上げましたが、続いて5月3日より5日の間、春の大祭(わかば祭り)を斎行致します。

期間中の5日には春の大祭当日祭(尚武祭)が斎行され五穀豊穡・産業発展が八幡大神様に祈られます。また、これに先立ち3日には春の大祭第一日ノ儀こどもの祭(稚児健康祈願祭)と第32回の稚児行列が行われます。翌4日には春の大祭第二日ノ儀「若葉inおみや」コンサート、第10回拳式者の集いを開催。



5月3日、こどもの祭(稚児健康祈願祭)に続いて稚児行列が



午後には植樹祭が執り行われます。昭和の日の4月29日には昭和祭を斎行、先帝陛下のご懿徳をお偲び申し上げます。

3～5日の大祭期間中、境内では大宮八幡植木市や盆栽展が開かれまた和太鼓奉納や古武道演武も催され、春うらかな日和に境内は参拝の方々に賑わいます。

春の大祭祭典と奉納神賑行事

祭 事
昭和祭 4月29日

朔旦祭並びに躑躅育木祭 5月1日

春の大祭第一日ノ儀 5月3日

こどもの祭(稚児健康祈願祭) 5月3日

第32回稚児行列巡行 5月4日

春の大祭第二日ノ儀 5月4日

植樹祭(苗木授与先着二〇〇名) 5月4日

春の大祭当日祭(尚武祭) 5月5日

春の大祭終了奉告祭(直会乃儀) 5月5日

神賑行事
春の弓道奉納射会 4月29日

古武道奉納演武 5月3日

第10回若葉inおみや 5月4日

第10回拳式者の集い 5月4日

杉並太鼓奉納演奏 5月4日

野点茶会(裏千家) 5月5日

方南エイサー踊り奉納 5月5日

雅太鼓奉納演奏 5月5日

奉納献燈提灯 4月29日～5月16日

園児画展 4月29日～5月16日

みどりの会即売 4月29日～5月2日

スカウトバザー 5月3日

大宮八幡植木市 5月3日～5日

盆栽展示会・即売会 5月3日～5日

露 店 5月3日～5日

昭和祭齋行



昭和の日の4月29日、当宮では午前10時より昭和祭を宮司以下祭員奉仕により中祭にて齋行致します。国民と共に艱難辛苦に耐え、今日の国の繁栄を導いて下さった昭和天皇をお偲び申し上げ、そのご聖徳に感謝の誠を捧げます。

大宮八幡植木市



春の大祭期間中の3日～5日にかけて、表参道では新緑の風物詩「大宮八幡植木市」が賑々しく開催されます。参道に並べられた新緑の苗木や色とりどりの花々を求め、早朝より多くの方々が訪れます。

若葉inおのみや

4日社殿に於いて春の大祭第二日ノ儀齋行の後、神楽殿前において第10回「若葉inおのみや」として、

苗木授与と献木のお願ひ



5月4日(みどりの日)午後2時より、第61回全国植樹祭に因み、当宮みどりの会主催の植樹祭が齋行されます。祭典後、各家庭にも緑を広げる運動の一翼として、植樹祭ご参列の方々先着200名様に苗木が授与されます。また、ご社頭では、鎮守の杜を守り育てようと、皆様方よりの献木のご協賛を承っております。

献木初穂料 一口二、〇〇〇円

※年中を通じて承っております

本年も若葉萌ゆる大宮八幡宮の杜で、ギター(原とも也氏)・パーカッション(仙道さおり氏)・尺八(ブルース・ヒューバナー氏)に依るコンサートライブが奉納演奏されます。毎年、多くの参拝の方々に音の世界をお楽しみ頂いております。

第十一回裏千家献茶式

5月9日(日)午前10時より裏千家献茶式が茶道裏千家今日庵 鵬雲斎千玄室大宗匠(先代15代家元)ご奉仕で行われ、濃茶と薄茶が厳かにご神前に献じられます。奉賛添釜茶会も今年も淡交会会東京第七支部

の担当主催で開催されます。大宗匠にも濃茶席・薄茶席・立礼席の三席ともに参席頂き賑々しく催されます。又、当宮付属



の大宮幼稚園では、恒例の幼稚園茶席が開かれ、可愛いお手前が披露されます。

第七回大宮八幡宮の杜薪能

第七回大宮八幡宮の杜薪能が来る5月15日(土)午後6時より当宮境内特設舞台で催されます。(NPO杉並で能楽を楽しむ会・田木千城夫会長)の主催、杉並区教育委員会・杉並区文化協会の後援)当日は先ず火鑽神事が齋行され、浄火が篝火に点されたあと、野村四郎氏ら観世流一門により舞囃子「自然居士」、狂言「千鳥」、能「土蜘蛛」の各一番が演ぜられ、新緑の神域に幽玄の世界が現出されます。なお入場には陪観券が必要となります。詳しくは社務所まで。



(昨年の薪能の様子)

社頭往来

- 1月1日 立正俊成会会長 庭野日鑑氏他
- 五撰家一條家当主 一條實昭氏
- 1月2日 学習院女子大学教授 江口泰広氏
- 小笠原流宗家 小笠原清忠氏
- 1月4日 大國魂神社宮司 猿渡昌盛氏
- 1月5日 杉並区長 山田宏氏
- 1月6日 東京大神宮宮司 松山文彦氏
- 衆議院議員 石原伸晃氏
- 1月8日 高千穂学園理事長 藤井耐氏
- 1月12日 ボトム・レッドソックス投手 岡島秀樹氏
- 1月20日 真清田神社宮司 飯田清春氏
- 1月21日・4月4日 立正俊成会喜多方教会会長 工藤友子氏他
- 1月22日 靖國神社元宮司 湯澤貞氏
- 茨城県護国神社宮司 佐藤昭典氏
- 古代人形制作者 蒼成院母祥女史
- 1月31日 志野流香道宗匠 蜂谷宗玄氏他
- 2月7日・3月4日 彌彦神社宮司 永田忠興氏
- 2月9日 櫻山八幡宮権宮司 谷田吉和氏
- 2月18日 ヒューストン・アストロズ選手 松井稼頭央氏
- 3月3日 早虎神社宮司 立野好仁氏
- 3月4日 広島護国神社宮司 藤本武則氏
- 3月6日 (財)合気会合気道本部道場師範 関昭二氏他
- 3月30日 花園神社宮司 片山文彦氏
- 4月6日 氣比神宮宮司 桑原恒明氏

杜の話題

社頭の初春



先の見えない不況や政治混乱など立ち込める暗雲を吹き払おう。今年の初詣では初太鼓の開門と共にこうした真摯な願いを込めた参拝の人々で大前は埋めつくされました。社殿では観世流野村四郎師の神能「翁」の奉納に続き、新春厄除開運大祈禱祭(一番祈禱)が宮司奉仕により斎行されました。

元旦午前八時よりは年の始めを祝う歳旦祭、また

3日には皇位の始めを言祝ぐ元始祭がそれぞれ中祭で斎行され皇室を戴く日本国家の安泰が祈られました。

また境内では2日午前10時より小笠原流弓の除魔神事「曇目の儀」「大的式」が行われ、小正月の15日には古神矢古神札焼納祭(どんど焼き神事)が奉仕され、火鑽具により古式通り熾せられた浄火によって古神矢古神札等が焚きあげられ、



蒼成院母祥女史の人形展が

神話や神道の世界を伝統の人形芸術で表現されている国際芸術家、古代人形師の制作者、蒼成院母祥女史の人形特別展示会が1月22日、当宮清涼殿で催されました。

蒼成院氏は色彩学、人形、草花、詩文等の総合芸術クリエイターとして国際的に活躍。特に人形創作では、代表作として高い評価を受ける第11代垂仁天皇の皇女で御杖代として天照皇大神に仕えた「倭姫命」、また8年を費やして完成した神宮

神職等が大祓詞を奏上、炎は世の罪穢れを吹き払うかのように天に立ち昇りました。午後3時半まで杉並消防団第二分団の奉仕を頂きました。

貴乃花部屋三力士が成人奉告

初詣での参拝者で賑わう1月9日、貴乃花部屋の力士が成人奉告祭の新春祈禱をされました。新成人となったのは貴ノ岩義司、貴月芳将匡、貴斗志将



吏の三力士。おかみさんの景子夫人に付き添われた三方はご祈願のあと宮司禱書の祝成人の絵馬を受けられ、暫し宮司と懇談しました。

式年遷宮 遷御の渡御行列132体の大作等を手懸けて

当日は靖國神社の湯澤元宮司や茨城県護国神社の佐藤宮司等神社関係者も来宮され、昇殿参拝の後、当宮宮司など70余名が清涼殿に特別展示された「倭姫命」など作品の数々を鑑賞。また作者の講演や懇親会も行われ、古神道の精神が託された繊細優美な人形の姿に出席者は魅了されておられました。



式年遷宮 遷御の渡御行列132体の大作等を手懸けて

文化財防火デー消防演習

当宮恒例の自衛消防演習が今年も文化財防火デーの1月26日、境内で実施されました。当日午前10時、社殿より出火との想定で119番通報、参



拝者の避難誘導、初期消火を実施。杉並消防署の消防車が到着すると同署と杉並消防団、当宮自衛消防隊の三者による一斉放水が行われました。

演習には大宮二丁目防災会の皆さんも参加。また大宮幼稚園園児の訓練の様子が地元TV「杉並ニュース」でも放映されました。

伊勢参宮旅行「奈良大和路」の旅

新春恒例の伊勢参宮旅行が1月27日〜29日で行われ、遷都二千三百年に沸く奈良・大和路を訪ねました。一行32名は新幹線で行き伊勢へ向かい、まづ伊勢の神宮外宮に御垣内参拝、次いでお建



て替えなつた宇治橋の渡り初めをして、内宮に進み御垣内参拝、太々神楽を奉納。翌日は一路奈良へ向かい、今話題の纏向遺跡に程近い大神神社と大和神社に正式参拝。最終日は春日大社正式参拝のあと薬師寺、唐招提寺に参詣、また大極殿等が復元された「平城宮跡」を車窓より眺め、遷都二千三百年のその上を偲びました。

紀元祭並榎原神宮遙拝

2月11日はもとの紀元祭である建国記念の日。この日、当宮では紀元祭並に榎原神宮遙拝を斎行致しました。



まづ社殿にて午前10時より紀元祭を斎行。神武肇国を偲び、皇紀二六七〇年のこの年の平安をお祈り申し上げました。

続く榎原神宮遙拝は天候不順のため、装い新たになった清涼殿2階「蓬莱の間」にて斎行。遙拝詞奏上に続き、全員で「紀元節の歌を斉唱。また聖寿の萬歳を声高らかに奉唱して建国のその上をお祝いしました。

立正佼成会 杉並教会和田第一支部参拝

立正佼成会杉並教会和田第一支部（浅岡身知子支部長）の支部会員身体健勝家内安全祈願祭が去る2月21日斎行されました。

同支部の祈願祭は毎年年頭に行われているもので、今年は80名の方々が参列。祝詞奏上に続き浅岡支部長に合わせて拝礼を行ったあと清涼殿で直会。神酒拝戴の後、宮司が講話を行いました。

合気道 関師範の還暦祝い

（財）合気会合気道本部道場の師範 関昭二・七段の還暦祝祭が去る3月6日、当宮で奉仕されました。関七段は合気道界の第一人者。

先ず社殿にて諸外国よりの参加多数を含む門弟有志ら130余名が参列して還暦祝いの奉告祭を斎行。ついで清涼殿にて鏡開きなど和やかな祝宴が催されました。



神青の海外慰霊祭に職員参加

東京都神道青年会（北川正訓会長）では同会創立六〇周年記念事業として3月9日より13日の日程で海外戦没者慰霊祭をミャンマーにて実施、当宮より提督権禰宜が参加致しました。

ミャンマーは戦没将兵十八万五千余柱が眠る慰霊の地。10日早朝、激戦地シタン河畔にて黙禱を捧げた後、ヤングン日本人墓地のビルマ平和記念慰霊碑にて戦没者慰霊祭を斎行致しました。

武者絵幟 御歴代御眞影の奉納

御祭神應神天皇の幼き御姿を描いた武者絵幟と歴代天皇御眞影が当宮に奉納され、去る3月16日奉納奉告祭が斎行されました。

今回のご奉納は應神天皇壹千七百年式年祭のこの年を意義ある年にとの思いから、切画家の風祭竜二氏とあずま工芸（株）のお二人の篤志家により行われたもの。風祭氏のご奉納は絵幟師吉田博之（号・辰昇）作画の「神功皇后武者絵幟二流と風祭氏作成



の切画「皇居」の一面。武者絵幟は戦前に広く行われていた節句幟で三韓征伐に向かわれる神功皇后と武内宿禰に抱かれた應神天皇の御姿が描かれています。また、あずま工芸様よりは御歴代天皇の御姿を描いた馬堀法眼善孝画の「日本國歴代天皇御眞影」一面をご奉納頂きました。

竹駒神社初午大祭例祭に参列

3月25日、全国でも珍しい当宮と姉妹神社の関係にあります宮城県竹駒神社（千葉博男宮司）の例祭に、当宮より宮司を始め高橋・梅田両責任役員が参列し、今回で12回目となりましたが、竹駒神社の役員総代の方々と友好を深めさせて頂きました。



大宮八幡桜まつり

春のお花見シーズン、桜の開花に合わせ3月27日から4月11日まで大宮八幡桜まつりを開催。この間の土・日には、お休み処の開設や夜間参拝を実施。また、3月27日・4月3日のそれぞれ午後6時より「夜桜の神遊び」としてライトアップされた桜に篝火の炎揺らめく幻想的な雰囲気の中で雅楽と神楽舞の奉納演奏が行われ、響き渡る雅楽の音色を、風情たつぷりの夜桜をご陪観の皆様にお楽しみ戴きました。

国旗のある自由西コンクール入賞

（社）国旗協会主催の国旗布告「四〇年記念「国旗のある自由西コンクール」に今年も当宮の年長組全員が応募して、ふじ組の木原由梨奈さんが運動会の国旗掲揚を思い浮かべながら描き、見事に銀賞を受賞。

沢山の拍手の中、園長先生より賞状が伝達され担任の先生やお友達で喜びありました。



戌の日詣りは

子育八幡さまの当宮で安産祈願のご祈禱を！

ご祈願の方には安産腹帯宮田帯を授けしております。子授け祈願・初宮詣も随時お受けしております。

戌の日早見表

（平成22年5月～平成22年9月）

9月	8月	7月	6月	5月
9日(木)	4日(水)	11日(日)	5日(土)	12日(水)
21日(火)	16日(月)	23日(金)	17日(木)	24日(月)
	28日(土)		29日(火)	

赤字の日付は大安吉日です

大宮八幡の杜 春から夏へ

水無月夏越の大祓

大祓とは、日々の生活の中で知らず知らずに犯してしまつた人々の罪や穢を祓い清める神事で、6月(夏越)と12月(師走)に行われます。

夏越の大祓は6月30日の午後4時より行われ、神職が大祓詞を宣讀した後、人形に各々の心身の穢れを移し、茅を束ねた茅の輪を左廻り・右廻り・左廻りと三回くぐる茅の輪神事が執り行われます。



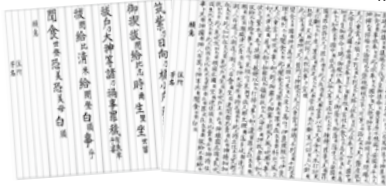
大祓ご参加のご案内

毎年6月1日より社頭にて人形(形代)が頒布されます。これは皆様の身代わりとして眼に見えない罪や穢を人形に託して祓いを受け清めるものです。この人形で全身を撫で息を三度吹きかけ、罪穢を移してからお納めになり、夏越の大祓にご参加下さい。車形もあります。(※祭典日前でもお納め頂けます。)

おほはらい 大祓詞書写会

当宮の教化活動の一環として、りんどう会と共催の大祓詞書写会(大宮八幡塾)が、夏越の大祓に併せ、今年も6月19日(土)より27日(日)までの9日間開催されます。

この書写会は心静かに真心を込めて大祓詞(約九百字)を書写し、奉納することにより大神様の御神徳を戴くことというもの。浄書された大祓詞は、大祓に引続き行われる奉納奉告祈願祭に神前に納められます。



平安の雅 第11回乞巧奠飾りと 大宮八幡乞巧潜り神事

平安の七夕を現代に再現する第11回「乞巧奠飾り」が、7月1日より15日の間、清涼殿ロビーに展示されます。乞巧奠は我が国の棚機つ女の信仰と中国の星祭り



が重なる中、宮中を中心に行われた技芸上達を祈る行事です。

期間中、神門前には梶の葉や五色の布を垂らした平成の七夕「大宮八幡乞巧潜り」が設けられ、七夕7日の午後6時には『七夕の神遊び・技芸上達祈願祭』を斎行。引き続く乞巧潜りを左・右・左と三度潜る乞巧潜り神事を参列の方とともにを行います。また、日曜日の4日と11日午後5時より乞巧奠飾り前にて「雅楽の夕べ」(雅楽と神楽舞)が、当宮職員らにより奉奏されます。



乞巧潜りに併せて神門には大笹竹も立てられ、ご参拝の皆様のご願いを込めた短冊をご自由に結んで頂きます。

大宮八幡花だより

6月中旬頃、社殿前の菩提樹が、薄山吹色の花を咲かせます。境内に仄かな香りを漂わせると同時に散つた花により、辺り一面薄山吹色の絨毯を敷き詰めたかの様子をみせます。



「乞巧守り」を奉製

本年も平成の七夕祭りに因み学業や技芸の上達を祈願して期間限定の特別奉製の「乞巧守り」が授与されます。

これは、笹竹に梶の葉と紅白の七夕人形が付けられた御守りで7月1日(朔旦祭)より、天神祭りの7月25日までの特別祈願お守りです。



春の大祭後の主な行事

- 第11回茶道裏千家献茶式 5月9日
- 第7回大宮八幡宮の杜薪能 5月15日
- 御嶽様名神社例祭 5月16日
- 第31回大宮まつき展 5月下旬〜6月上旬
- 大祓詞書写会 6月19日〜27日
- 夏越の大祓・茅の輪くぐり 6月30日
- 第11回乞巧奠飾り 7月1日〜15日
- 乞巧潜り神事 7月1日・11日
- 雅楽の夕べ 7月4日・7日
- 七夕の神遊び(我妻千達祈願祭) 7月7日
- 第10回納涼大宮天神祭り書道行燈掲出 7月25日
- 第10回杜のひびきinおみやや和太鼓演奏 7月25日
- 多摩清水社例祭(水神祭) 8月1日
- 第27回戦歿者慰霊祭 8月15日

納涼大宮天神祭り 杜のひびきinおおみや

恒例の夏の風物詩「第10回納涼大宮天神祭り」が今年も天神様のご縁日7月25日に大宮天満宮にて斎行されます。皆様よりご奉納の多数の書画行燈に、夕刻より灯りが入れられ、学業成就を祈願する「大宮天神祭り」が午後5時半より斎行されます。

祭典に続き、午後6時半より、**杜のひびきinおおみや**（時間はずした日の祭事）として太鼓奏者響道寛氏等による奉納演奏を実施、併せて「子供のミニ花火の集い」も催されます。



多摩清水社例祭（水神祭）

地球温暖化・環境異変のなか世界的に水への関心が高まっています。水神様の御神徳を称え、水の恵みに感謝を捧げる**多摩清水社例祭**が水の日の8月1日、朔旦祭に続き境内多摩清水社で斎行されます。

書画行燈の募集

納涼大宮天神祭りに当たり「書画」の作品を募集しております。書や画は、行燈に貼って灯を点し7月25日の夕刻より大宮天神祭りに献灯して、ご社殿前に掲出されます。水彩画又は書を指定の用紙に必ず横長に使用して、ご奉納頂いてます。尚、この書画行燈は大宮八幡宮祭りにも掲出されます。（※用紙は社務所にあります。無料）



第27回戦没者慰霊祭

終戦記念日の8月15日、当宮戦没者慰霊祭実行委員会主催による**第27回大宮八幡宮戦没者慰霊祭**が斎行されます。



正午、日本武道館の全国戦没者追悼式に合わせ黙祷を捧げたあと、当宮氏子地域より出征された御英霊の御霊に追悼と感謝の誠を捧げます。

大宮八幡宮みどりの会会員募集

みどりの会は、周辺地域の緑化に寄与し、緑の発信基地として緑化運動の一翼を担いたいと結成されています。会の活動にご賛同頂き、共にご活動頂ける会員を随時募集されております。

尚、梅の会・さつきの会・菊の会も当会に所属しています。詳しくは、事務局（当宮社務所内）へお尋ね下さい。

大宮菊の会菊作り講習会

杉並大宮菊の会主催による菊作り講習会が、今年も全5回にわたり当宮境内菩提樹下にて開催されます。今年も菊花展への出品を目標に、是非多くの愛好家の方にご受講頂き、美しい菊花を育て上げて頂きたく存じます。

- 菊作り講習会日程
- ・5月23日 13:00
 - ・6月20日 13:00
 - ・7月4日 13:00
 - ・10月3日 13:00
- （雨天決行）



りんどう会活動報告

当宮敬神婦人会（りんどう会）では、1月15日の厄除げぜんざい奉仕や2月7日の新年会に続き、4月18日には第4回の総会が開催され、ご祭神應神天皇について」と題し、宮司より講話の予定。又、昭和祭前日の4月28日には、大祭を控え会員らにより、普段は禁足地の御垣内の清掃奉仕が行われます。



大宮八幡祭り（秋の大祭）

祭典日程のお知らせ

本年度の大宮八幡祭り（秋の大祭）は左記の日程により斎行されます。

- *例祭は**9月15日（水）**に斎行する
- *神輿神霊入・若宮八幡神社並白幡宮例祭は**9月17日（金）**に斎行する
- *宵宮祭は**9月18日（土）**に斎行する
- *氏子奉幣祭（奉祝当日祭）・神輿合同宮入は**9月19日（日）**に斎行する
- *神輿神霊返は**9月20日（祝）**に斎行する
- *十五夜の神遊びを**9月20日（祝）**に行う

毎月・お朔日参りを
致しましょう

毎月1日 朔旦祭
毎月15日 月次祭

初宮詣芳名

(平成21年11月24日〜平成22年3月22日)

お子様のお健やかな成長をお祈り致します

川代海音 幡山陸登 小林えり 池田麟太郎
 池本悠悟 露崎心寧 尾曲奏 玉木貴大
 高橋凜 北原おりえ 齋藤隼士 玉木鈴子
 荒木陸来 井手梨音奈 植村世菜 石田祐月
 大坪美智子 下川幸都 宮崎理沙子 田制花
 大田馨之 新井詩衣 武田華奈 奥本大雅
 河上瑛介 加賀美夢人 勝田実生 田原朋樹
 河上絢子 本柳作矩 南優衣 郡司任華
 矢野龍之介 黒澤和 太田早紀 山村美和
 田村圭 黒澤礼 田中陸 木下あい
 岩井みゆ 池田和陽 濱田暖 松本詩音
 高木寿弥 土屋愛利 奥畑美音 眞嶋航輝
 盛留央佑 内藤百 伊藤花梨 田名網利心
 上遠野綾二 厨時野谷朔 生田望々子 加山結愛
 山田理咲 淺井悠 神長佑 足立太駕
 堀場雄聖 菱刈愛 上田昊知 竹内公太
 小林映穂 豊田志侑 杉田大雅 両田陽弥
 野田結子 土肥和晃 馬場悠生 大高一翔
 斉藤理一郎 川口遍音 渡邊輝一 高橋陽愛
 佐々木凛 久保田羽波 寺坂涼 稲垣寧々
 石川紗蘭 梶谷咲太 新田望 柳空宙
 橋本花歩 吉成彩香理 地田有佑 岡向勇敢
 江原哲平 西河輝次 出澤花音 藤枝幹
 谷口結希乃 山田竜也 川野敦功 阿保遼
 渡辺璃々 北澤昂季 犬飼祥生 濱雄真
 梅田玲於奈 西川侑磨 齋藤梨桜 八山航宇
 左納くるみ 澤潤太郎 小川結菜 長谷川佑
 村田然 廣澤瑞季 米森比呂 山田愛瑠
 前田秀惟 石川椎菜 尾形勇吏 宮崎凜
 河崎楓 古川侑成 星川奈美 北野心晴

関皓介 伊藤玄騎 大豆生田颯人 本多昌仁
 小峰優那 齋 樋口実佳 本橋涼
 杉山湘太 クリスアズ 市川颯士 小林璃美
 常田陸斗 野村斗真 柏豪人 後藤煌真
 若林壤 関根周 河鍋紗希 中山博仁
 成田龍 打越武志 永尾悠真 佐々木翔貴
 大森梨功 大塚萬理 清水奈穂 森田七海
 中村勘太 長谷川輝 竹田有 中川莉緒
 高橋有理杏 佐藤佑 有吉駿祐 柳山隼人
 三嶋珠紀 飯田陽菜乃 大庭七海 森居珠世
 原来実 吉田美波 梅原祈愛 西勝空
 阿久津諒 拜野藍 長濱紗奈 浅倉貫太
 平井花奈 横山丈太郎 原響毅 佐藤碧人
 古地惲士郎 関根康太 近藤俊太 日原文香
 並木洋太郎 山岸慶翔 山本瑛仁 前野啓人
 鈴木琉之介 原理栄子 上橋百恵 石井遥菜
 成見朱美香 益川修大 澤村美尋 杉本想和
 山重奈々 益川大芽 村越要 鈴木茜
 針生珠玖 小林珠千代 吉村母歌 小林加奈
 山脇莉玖 鶴田歩夢 吉田悠人 込山英幸
 池戸雄伸 鶴田大夢 宮崎ゆりな 杉田恒太郎
 細江心暖 田名網勇我 三枝花 古川日葵
 石黒絢 服部心胡 林恰吾 小谷野佳斗
 生島千馨 大角若葉 今妃莉 福田将真
 久保田和志 森大和 伊藤志文 大野隆汰
 鈴木巧 大島芳嵩 西村凌雅 遠藤千奈
 宗像泰大 河原志羽 嶋津みう 長谷川遥志
 小山拓己 山口朋輝 高橋里奈 片山知咲
 磐前勇歩 近松優汰 内田隼之介 加納レオ義浩
 池田瑚子 清水康祐 長井景 武者啓紀
 池田未來 羽生龍史 見吉浩太 二之形佳穂
 松尾開智 石黒希明 徳永悠斗 末廣一樹
 三好えり子 加藤瑠恵 下野悠太 松田ゆのん
 飯田梨乃 師岡実央 遠藤ちひろ 古川心結
 森澤一稀 高木奏 松島妃南 矢澤優羽



勤続5年表彰を受けて

「大きくならしたら幼稚園の先生になりたい」と小学校の卒業文集に書いた将来の夢。小さい頃から思い描いていた私の夢を、実現させてくれた大宮幼稚園。今年、夢の叶ったこの場所で、勤続5年表彰を受ける事が出来ました。



今、これまでの保育の日々を振り返ってみても本当にあつという間だった気がします。いざ仕事をしてみると、楽しい時間だけではなく、大変な事も色々あります。でも、そこにはいつも私を支えて下さる先生方がいて、周りの方の支えがあって、この日を迎える事が出来たのだと、感謝の気持ちでいっぱいです。

そして何より、私のパワーの源、それはやっぱり子ども達です。どんな時でも、子ども達の中にいるといつの間にか笑顔になつていきます。これからもこの日の喜びを忘れずに可愛い子ども達に囲まれた楽しい日々を過ごしていきたいと思えます。

教諭 服部仁美

第60回大宮幼稚園卒園式

創立60周年の第60卒園式を3月19日に挙行政致しました。当日は天候に恵まれ暖かく穏やかで、園庭に整列した後にご神前で卒園奉告祭を執り行い、次に卒園式会場へと移動しました。

昨年リニューアルされた清涼殿の2階には花が沢山飾られ、シャンデリアの照明と共に外の光が明るく差し込み、木々の緑が 見え、とても素敵な会場になりました。式次第の通りに進み、園長先生から卒園証書が授与されたときは、どの子どもも皆元氣よく大きな声で「ありがとうございました」と挨拶が出来ました。そして、子ども達からお別れの言葉を全員で述べた後に、今年から新しく活動に取り入れた「ことばあそび」で学び覚えた「漢詩」の一節を群読して披露しました。

ご出席頂いたご来賓の方々や父母の役員様方からのお祝いの言葉を胸に秘め、思い出のアルパム「きみとぼくのラララ」を合唱して、本年度104名の子ども達が巣立ち、第1回から数える約8200名の卒園時数となりました。



- 大森遥輝 木本泰汰 眞崎晃輔 鈴木潤之介
 松本翔伍 石坂力也 中間咲希 仁科慧大
 日根野魁人 山本福丸 山本賢弥 飯尾玲永
 藤巻杏 加藤舞虫紗 北林諒 長谷川日奈
 中澤璃斗 三好康太 田中希歩 増田実桜
 平野莉望 富澤杏里 山口凛 山田詩乃
 松井心美 福佐陸 早川董子 丸山大輝
 小室勇惺 猪越杏珠 中西遥人 庄司麗
 前田莉都 安田雛 岩城在音 山田爽栄
 常田聖悟 渡邊伊織 山村空愛 野中遼
 常田涼悟 庄司丞佑 松田旺佑 嵯峨理紗
 布川瑠花 澤田政廣 伊地知凛 近藤大翔
 平松颯 宮内駿輔 梅津勝乃介 下野結葵
 齋藤たまも 安藤真央 澤頭莉子 村上琥珀
 竹田葵 和光泉樹 鈴木安結美 木村虎太郎
 清水統晴 小嶋梨峰子 小林星南 熊谷恒星
 田中美聡 ゴウケン 山本大翔 寺澤はるね
 小山留璃 勝部通介 首藤琉花
 廣瀬駿 須貝大翔 宇城葵 須賀遥稀
 住谷聡太 秋月洵乃 角田凛 落合成也
 中島麻結 鈴木優奈 丹治陽翔 南塚日花
 森本仁美 山田雄大 中村天音 外谷あかり
 工藤晃輔 平野宝 青山友希 尾寅来実
 西田凜子 佐藤花音 三宅栞 高橋唯莉彩
 水野陽南子 西衛太郎 矢後楓柚香 丸山奈津子
 柳渕絢音 高山孔明 鈴木大賀 戸倉大晴
 仙石奏心 佐藤遼治 古泉洗翔 渡邊早紀
 前田源治 河野直太郎 大内山玉季 伴野琴音
 佐々木冬磨 鈴木孝太 山森太智 阿内いぶき
 滝澤郁大 佐々木奏 海老澤周 中村優心
 藤田碧生 猪股焯平 山岡元就 高岡智帆
 請川匠 本田航介 小山拓駆 設楽陸十
 長門玲奈 和田唯花 野口友椰 大塚明莉
 秋本結衣 菊地百栞 沢田葉音 杉下佳穂
 矢作雅妃 赤木理奈 森屋推衣 大川原依波
- 倉澤俊太郎 井上心晴 瀧川航史 西本樹
 菅原拓翔 鶴田未来 高橋優太 和栗春来
 菅家空来 須田陽咲 高桑真之 竹中進士郎
 矢島佳苗 石井柚希 横山和心 三橋歩果
 神酒蒼大 横山由依 金丸沙彩 殿塚奨真
 金子侑世 上東直央 森山奈南 野上莉子
 廣瀬遥 中村つきの 岩崎太我 松江彩羽
 熊谷雪美 上家咲羽 片岡春乃 元芳柗太
 梅田明日香 小暮凜空 高橋蓮大朗 蓬田壮真
 福田琴乃 目黒統一 齊木晴香 瀬沼優心
 鈴木クリエ 伊藤柚衣 浅井翔太郎 齊藤優奈
 長廻とあ 相木佑友 鈴木友萌香 青木純礼
 浅山陽向 長谷川樹 青野未生 鷹野風香
 渡邊実慈 桜井そよ香 持丸瑛太 山口里菜
 井出真優 五十嵐悠和 三浦優侑 内田衣咲
 川波蒼空 川上理咲子 小玉有真 中出希実
 松本米丸 金子茉央 竹重颯真 三好雅
 高梨陸 岩田怜久 山下光琉 岩石玲
 延原陸仁 山本伊織 瀧澤蘭 河野奈央
 佐藤莉子 柴崎結香 梶垣慶太 須田羽津音
 鹿瀬島巧巳 林ゆり 久賀建門 中富光哉
 大石麗央 青木つばみ 濱田ちひろ 清水さくら
 村山舜 渡辺琥介 竹安楓大 籙木康生
 大塚孝太郎 坂田旬 永田春陽 岩瀬耀太郎
 高野結田 可児沙也香 福田清乃 栗崎蘭
 曾根愛梨 七海理代 片山倫実 杉田篤人
 倉知万結 山内彩楓 安井樹藍 河原翼
 伊藤和章 藤原蒼士朗 軍場加帆 横溝朔也
 安井章紘 増田武大 仲吉嶋桜奈
 皆川真彩咲 相原幸志朗 山口濕太
 森川純奈 舩坂滯央 赤石廉太郎
 奥山果音 相墨裕希 福田彩葉
 寺田美海 石井俊太郎 武田詩生
 渡邊瑛太 中島祥慈 宮崎眞
 塩田麻琴 加賀谷彩希 青木凜彩

園舎等一部改修工事着工

大宮幼稚園創立60周年記念事業として計画が進められていた幼稚園園舎玄関ホール及び玄関門扉の改修工事及び園舎外壁環境壁画作成にこのほど着工、去る3月15日



起工清祓が執り行われました。

当日は午前10時よりの月次祭に併せて大前に改修工事の起工奉告が行われたあと、午前11時30分より玄関ホールを齋場に記念事業実行委員、父母の会役員、工事関係者等

結婚式挙式者芳名(敬称略)

(平成二十一年十二月一日)

平成二十二年四月十五日

- 笠井康至・由美子 川崎真一郎・朋子
 上甲哲・眞誓 安藤綱泰・恵
 小形祐三・麻紀 須藤和宏・由紀
 ムナカユル・岩崎咲子 浮田純・篤子
 村田昌穂・美佐江 大島学・真由
 千田格生・恵 塩崎誠・朱里
 内谷仁・真理 安藤賢祐・遊

緑豊かな都心の杜。 正統派神前式

初詣 宮集 宴會

衣装・美容着付・写真・初宮饗膳(ご会食)など承ります。

清涼殿 03(3312)7515



30余名が参列して起工清祓を齋行。祝詞奏上、工事箇所(園舎)の清祓につき実行委員(園長)、高橋副実行委員長、井口父母の会会長、また設計・施工業者らが玉串を奉りて拝礼、工事の安全、無事竣工を祈念致しました。4月6日竣工の予定で進められています。



應神天皇七百年式年祭記念

春の大祭(わかば祭り)5月3日~5日

春の大祭 当日祭(尚武祭)〔5日〕



宮司以下祭員・参列員、社殿に参進



多数の参列者を迎え、祭典斎行



祝詞に続き、ご神前に浦安舞を奉奏

春の大祭 第一日ノ儀 こどもの祭(稚児健康祈願祭)〔3日〕

稚児行列には、鼓笛隊・スカウト・猿田彦・役員総代・こども太鼓山車など多くの供奉が



祭典にはお稚児さんも大勢参列



飛び入り歓迎!!こども太鼓山車



若葉萌える参道を行列が



古武道奉納演武〔3日〕



挙式者の集い〔4日〕



杉並太鼓奉納演奏〔4日〕



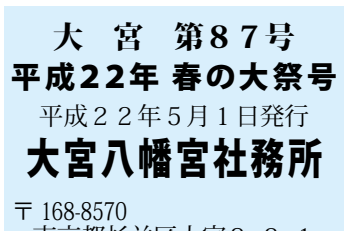
裏千家野点茶会〔5日〕



方南エイサー踊り〔5日〕



雅太鼓奉納演奏〔5日〕



植木市で賑わう参道



お参りの後、お休み処で休み

大 宮 第87号
平成22年 春の大祭号
平成22年5月1日発行
大宮八幡宮社務所

〒168-8570
東京都杉並区大宮2-3-1
電話 (3311)0105 FAX(3318)6100
Mail : info@ohmiya-hachimangu.or.jp

境内では、連日神賑行事が奉納されています〔3日~5日〕